

雑 報

553.43 : 550.85(523.5) : 622.343

高知縣八代鉱山含マンガン鉄鉱・銅鉱床概査報告

八代鉱山は昭和24年8月現鉱業権者坂田啓蔵(高知市長浜南地4957)がマンガン・鉄鉱を目的に出願し、昭和27年6月より探鉱にかかり1~3号坑中の含マンガン鉄鉱と共生して高品位の銅鉱を産出するにおよび、同年10月約8.5t (Cu 1.65%)を選鉱不十分のまま別子製錬所に出鉱したが、その後鉱況不良となり休山中のものである。

本鉱山は高知県土佐郡宇治村字八代にあり、土佐電鉄により高知市より約40分八代駅下車、鉱床は当駅の北方に賦存している。

附近の地質は古生層粘板岩およびこれを貫ぬく緑色岩であつて、鉱床は前記粘板岩中に賦存する塊状ないしレンズ状の含マンガン鉄鉱床および銅硫化鉄鉱床であつて鉱体の大きさは長径2~3m程度で賦存範囲は延長方向に

約20mと推定され、傾斜延長には数mしか探鉱されていない。現在6号坑内では含マンガン鉄鉱の低品位のものが認められるのみであつて、母岩の変質は緑泥石化が著しいところもある。

鉱石は含マンガン鉄鉱中に局部的に黄銅鉱・黄鉄鉱が濃集しているもので、含マンガン鉄鉱は暗赤褐色を呈し黄鉄鉱は細粒結晶よりなり、そのなかに黄銅鉱の高品位部があつたようである。

参考のために鉱石の分析値を表示すれば下表の如くである。

表に見られる通り Mn 3~8%, Fe 40~50%の含マンガン鉄鉱床とこのなかに局部的に Cu 15~20%に達する銅鉱が共存している。

(調査: 林 昇一郎, 抄録: 東郷)

試料番号	Cu	S	Mn	Fe	SiO ₂	Au	Ag	分 析 者
No. 1	—	—	7.98	50.79	—	—	—	高知県工業試験場
2	17.17	—	—	—	—	—	—	〃
3	—	—	3.00	41.76	—	—	—	〃
4	20.23	16.51	—	—	—	—	—	〃
5	2.82	0.30	—	—	—	—	—	〃
6	20.83	—	—	—	—	—	—	〃
7	14.70	26.22	—	—	—	—	—	〃
8	—	—	6.08	39.65	35.85	—	—	〃
9	1.65	1.49	—	—	—	1.9	27	別子製錬所

試料 No. 1~6 1~3号坑 No. 7, 8 6号坑 No. 9 1~3号坑より出鉱した8.5tの平均値

553.57 : 550.85(523.5) : 622.357.4

高知縣出来地(安部)珪石鉱床調査報告

安部鉱業所の出来地鉱床は高知県吾川郡の南東部にあり、土讃線伊野駅より直距10余km、バス約40分で索道終点に達し、採掘現場はそこより東方約1km、標高410mにある。

鉱床附近の地質は見かけ上、下位より古生層の砂岩・粘板岩・珪岩等よりなり、走向E-W、傾斜80~90°Nを示す。鉱床は珪岩帯の下部に近い、赤白ないし青白珪石よりなり、前者は上部に、後者は下部に多い。鉱体の大

さは、幅平均4m、延長20~50m、鉱量1,000~2,000tで、延長250mの間に数個の鉱体が確認される。鉱石は1級品を主とし、平均SK34である。その可採推定鉱量は約1万tと計上される。今後の地表精査および鏡押探鉱を既知鉱床の延長部分に沿つて行うことにより獲得鉱量の増加が期待できよう。

(調査: 林 昇一郎, 抄録: 非金属課)